

成人の薬物乱用に関する意識調査

平井 楓 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード：薬物乱用，意識調査，学校教育，家庭教育，地域社会

1. 緒言

近年，覚せい剤等薬物乱用により補導される青少年，とりわけ中・高校生の事例が増加傾向にあるとともに，その低年齢化の傾向が見られるなど，極めて憂慮すべき状況にある。

本研究では，成人に薬物乱用・使用に関するアンケート調査を実施し，地域や社会教育の研修会等で薬物乱用防止教育及び啓発の充実を強化することや薬物乱用・使用の防止すること，人々が薬物に対してどのように考えているかを明らかにしようとした。そして，薬物乱用の蕃延を防ぐために，今後の学校教育や家庭，地域社会で，どのように指導していくべきかという方向性を示すことを目的とした。

2. 研究方法

対象は，20歳代から80歳代の学校教員（含む養護教諭），スポーツ推進委員，地域住民の計430名で50歳代，60歳代をあわせると235名と半数を越えていた。「薬物乱用防止についての考え」「薬物乱用防止に向けての地域の取り組み」等の13項目について，アンケート調査を行った。

3. 結果と考察

薬物乱用については，56.8%が学んだことがあり，その時期は，小・中学校，高校時代，20代が多かった。30代は，特に少なかった。これらの背景には，過去に薬物について学んだにも関わらず，忘れている，あるいは学習の成果として身につけなかったのではないかと考える。

学校における薬物乱用防止教育については，

87.1%の人が不十分であると回答した。学校のみならず，家庭，地域社会が一体となり，防止教育を推進することが必要である。

次に，危険ドラッグなどの薬物を使うことについては，99.2%が使うべきではないと認識していたが，誤った認識をしている者もいた。薬物を使用することでどのようなことが起こるのか，正しい知識を身につける必要がある。

薬物乱用が発生し，拡大しないために地域で取り組めることについては，「啓発・広報活動」「パトロール」「勉強会，講演会，研修会」等が挙げられた。このように，薬物乱用を防止する。

4. まとめ

学校教員（含む養護教諭），スポーツ推進委員等に薬物乱用に関する意識調査を行い，以下の結果を得た。薬物乱用については，半数の人が学んでいたが，その時期は小・中学校，高校時代，20代が多く，薬物乱用防止教育は，不十分であると回答した。

今後，児童・生徒の薬物乱用を守るために，学校や家庭，地域社会及び警察等の関係機関が連携を深め，情報を共有し，薬物乱用を許さない環境づくりに努め，薬物乱用防止教育を充実させ，多くの大人で子どもを見守り，薬物乱用のない社会にしていくこと必要であるといえる。

【引用・参考文献】

和田清・邱冬梅・嶋根卓也：(2013)：薬物使用に関する全国住民